

教学半也



令和7年12月5日

No.15

全読者対象

地域社会との連携・協働 『つながる学校』

～地域とともにある学校づくり～

これまでに学校と地域とが築いてきた関係性を土台として、コミュニティスクールの仕組みを生かした学校づくりが進められてきました。この号では、地域の方とともに教育活動をつくり出している2つの学校の取組について紹介します。

宮田村立宮田小学校の取組

宮田小学校には、村役場と学校を兼務する職員がおり、学校と地域をつなぐコーディネーターを務めています。今年度は、コーディネーターの働きかけにより、地域の方が講師となって学校のクラブ活動の講師を担う取組が行われました。

【きっかけ（令和6年度末）】

ある研修会に参加した時、地域の方が講師としてクラブのプレゼンをしたという学校の紹介があったんです。「これいいな」と思い、校長先生に話してみました。



コーディネーター

クラブの講師を地域の方に担っていただくことによって、子どもたちは、多様な大人との関わりが生まれます。それに、先生方にとっては、研修にもなるし、地域の方にとっては子どもとの接点が生まれるだけでなく、やりたいことができる機会にもなりそうです。「3WIN」になるといいと思いました。



校長先生

【5月クラブプレゼンテーション】

コーディネーターが、地域の方に依頼し、手芸・将棋・折り紙・イラスト・野外活動・バスケットボール・サッカー・寺子屋・絵手紙・パフォーマー・木工・大正琴・プログラミング・読書・カードゲームの全15種類のクラブが誕生し、クラブプレゼンテーションで活動案が紹介されました。



パフォーマー



手芸

ブローチやいろいろな袋を手作業でかわいく装飾してつくるよ。ボタンがとれちゃったり、穴が開いたら自分で直せるようになるよ。

お皿を回したり、コマを回したり、いろいろな技に挑戦しますよ。ジャグリングっていう技もできるようになるよ。

パフォーマーのいいところは、①頭をよく使う ②一人に強くなる ③失敗に強くなることです。

【10月クラブのまとめ】

6年のある児童は「普段話す機会のない地域の方と交流できて、楽しかった」と振り返りました。職員からは「教室とは違う真剣な児童の姿が印象的だった」「教員とは違う視点や専門知識で本格的な指導を受けられていた」との声が、講師からは「大人顔負けの作品ができ、教え甲斐がある」「先生以外の大人と接すること自体に意味を感じた」等、活動継続へ前向きな声がありました。一方、大人との接し方や活動中のトラブルへの対応に課題があるとの反省もありました。来年度にむけて、学校と地域の方とが共通の認識のもと改善策を考えていけそうです。

茅野市立長峰中学校の取組

長峰中学校は、昨年度の学校運営協議会で、総合的な学習の時間における仕事調べの発表が話題となり、キャリア教育を重点に活動を考えていく方向が話し合われました。今年度は、学校側の願いを出発点に地域とともにつくるキャリア教育がスタートしました。

【4月第1回運営協議会】

参加者：校長、教頭、教務主任、学年主任、同窓会長、PTA会長、学区内高等学校長、コミュニティーセンター長、元民生児童委員地区会長、地域の代表者、子どもサポートCo



校長先生

今年度より長峰中学校区では、小中9年間で生き方教育（キャリア教育）を中心に据え、地域の魅力的な人、もの、ことに出会い、心を揺さぶられることで新たな価値観を見出しながらよりよい生き方を思い描いてほしいと考えています。

- ・幅広く、様々な方から、どのような思いで仕事をしているのかを聞きたいです。
- ・運営協議会の委員の皆さんから、生徒たちに話をしていただける方を紹介していただけませんか？



学年主任の先生方から

<委員の皆さんからの意見>

- ・中学校は、高校を選ぶ時期。自分の将来を開くための特別な経験をさせたい。「人生が変わりました」という衝撃を与えたい。
- ・茅野高校は「デュアル（インターンシップの高校生版）」で企業に行っている。それも参考になるのでは？
- ・各企画について内容を記した文書があると進めやすい 等

キャリア教育をテーマに運営協議会の皆が「子どもの心に響く活動を作り出したい」という気持ちで一致しました。

【5月第1回職業講話（2学年）】

上記の学校運営協議会を受けて、実施されました。学年からの職業希望をうけて、協議会で講師を選定し、運営協議会の会長と校長が依頼して実現しました。9つの企業や団体が参加しました。

当日の打ち合わせで、校長から、協力してくださった企業・団体の代表者の皆さんにむけて、「キャリア教育」を柱に小中9年間の教育を、職員、保護者、地域の方と話し合っていること、生徒たちが地域の「人」「こと」「もの」と出会いながら心を動かされ、より良い生き方を探究し、幸せになってほしいと願っていること、今日（この講話）は子どもにとって大きな出会いの場、皆さんには「自分史」を語る場にしてほしいとの内容が伝えられました。

講話の中で、参加企業・団体からは、生徒にむけて次のような話がありました。

（製造）苦勞したのは、新しいランプの開発。どこにも載っていないので、特許や文献の調査、社内外の人に聞きまくって情報収集。試作は全部失敗したが、とにかく繰り返した。座右の銘「必ずできることを信念に！」を大事に取り組んだ。

（美容）どの仕事も人を感動させることができる。人それぞれ得意、不得意があるので、まずは自信がある部分がんばること。美容師は人をかっこよくしたり、きれいにしたりする仕事だが、1番大事にしたいのは人としての魅力。

生徒たちは、様々な業種の講師の皆さんから生き方についての話を聞き、「自分のできることを精一杯やっている姿がかっこいい」「見えないところで、いろいろなことをやっているんだな」等、家族や先生以外の多様な大人の生き方に出会うことができました。これを受けて、2年生は、職場体験学習に向け、職種の選択へとつながっていきました。

紹介した2つの学校は、コミュニティースクールをもとに地域の方の協力を得て、これまで学校単独の教育活動だったものを地域とつながる活動へと変身させました。

学校で行われている活動に、地域の活動や魅力を関連付けることで「つながり」が生まれます。「地域連携」の視点で、今年度の取組を振り返ることで、地域とつながる糸口を見つけられるかもしれません。この2つの学校の取組を参考にしてみてください。